

第8回石川県書写書道教育研究大会

目 次

1. 挨拶・祝辞			
石川県書写書道教育連盟会長 第8回石川県書写書道教育研究大会長	藤 則 雄	—————	1
石川県教育委員会教育長	寺 西 盛 雄	—————	2
加賀市教育委員会教育長	藪 谷 栄 一	—————	3
2. 第8回石川県書写書道教育研究大会要項		—————	4
3. 公開授業学習指導案			
加賀市立南郷小学校 教諭	北 村 千 恵	—————	6
4. 研究協議「全国の実践に学ぶ」		—————	9
5. 研究誌上発表			
珠州市立正院小学校 教諭	西 本 陽 子	—————	1 1
石川県立内灘高等学校講師	藤 井 一 郎	—————	1 6
金沢大学教育学部 助教授	押 木 秀 樹	—————	2 2
6. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ		—————	2 7
7. 平成9年度石川県書写書道教育連盟役員一覧		—————	3 2
8. 第8回石川県書写書道教育研究大会役員一覧		—————	3 4
9. 石川県書写書道教育連盟規約		—————	3 5

ご 挨拶



石川県書写書道教育連盟会長
第8回石川県書写書道教育研究大会長
藤 貝 良 雄

このたび、石川県の諸学校で、書写書道教育にたずさわっておられます教育者・研究者の参加をえて、第8回石川県書写書道教育研究大会を加賀市立南郷小学校と加賀市市民会館を主会場として開催することになりましたことは、誠に喜ばしいことであり、研究のご発表をされます方々やご参加下さいました各位と共に、心からのお慶びを申し上げたく存じます。

さて、幼稚園から大学に至るまでの、各校園・大学を、書写書道教育の一貫性・有機的連携性という目的のもと、全国にその例を見ない連盟化をなし遂げ、今日に至るまでの約10年余の間、書写書道教育の発展のために努力し、本連盟会員相互の切磋琢磨と親睦のために心を尽くしてきたところであります。その成果は、徐々にではありますが、次第に評価を受けつつあるところであります。

また、当初、本研究大会の開催地をローテーション方式とし、特定の人々と地域に偏在しての活動を極力避け、更なる将来への発展を期して、輪番方式を目途としてきたところでありましたが、平成7年度の第6回大会で、初志を貫徹することができ、そして、今や第2ラウンドを迎えることができました。それは、本連盟の会員各位のご理解とご協力の賜物であり、本連盟の力量の前進の証であるとも言えましょう。

ところで、本大会のために、遠路遥るばると講演のためにご来県いただきました講師の山梨大学の教官であり、かつ、全国大学書写書道教育学会の常任理事としてご活躍されている宮澤正明先生のご好意に、連盟会員一同を代表して心からの感謝の意を表する次第であります。また、本大会を目指して、今日に至るまで研究発表のために研鑽してこられた研究発表の北村千恵先生に、さらに、本大会を成功裡に導くべく会場の設営等にご協力とご尽力を賜った加賀市立南郷小学校の中山甚三校長・教職員各位、及び、本連盟研究大会実行委員の各位に、心からの敬意と感謝の意を表したいと存じます。また、石川県下の各地より、本大会にご出席下さった先生方の熱意に敬意を表したいと思ひます。

最後になりましたが、石川県書写書道教育連盟が、会員各位の不断のご努力とご協力によって、今後ますます発展し、また会員各位には、ご健勝にて研究・教育に益々ご精進下さることを心から祈念しまして、第8回研究大会に当たってのご挨拶と致します。

祝 辞



石川県教育委員会教育長

寺 西 盛 雄

第8回石川県書写書道教育研究大会が盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。また、石川県書写書道教育連盟が、県内の書写書道教育の充実・発展のために貢献されてきましたことに、深く敬意を表します。

さて、今世紀は科学技術文明の時代であると言われていますが、来たる21世紀は、情報により大きな価値を見いだす、いわゆる「情報文明の時代」と言えましょう。

人々は常に文字・音・映像の情報を入手し、判断し、行動しなければならず、しかも、近年その情報量は急速に増大しています。このようにどんどん変わりつつある社会に適切に対応するためには、個性的・創造的な人材を育成すること、豊かな人間性や伝統・文化の尊重など、時代を越えても変わらない価値あるものを大切にしていけることが真に必要となります。

今日の書道教育も、やはり21世紀に生きる心豊かでたくましい日本人の育成ということ抜きにしては語れません。話しことばや文字に対する言語感覚を磨くこと、美しい日本語の使い手として自己を高めることが書道教育の原点にあります。

私たちの祖先は、一語一語に思いを込め、字配り、墨の色、紙質と文字との調和など、様々な工夫をこらす中で、四季おりおりの季節感を楽しみ、人生の深い味わいを書に託してきました。ワープロやパソコンの文字が普及し、手書き文字が少なくなったと言われてますが、人間が手でものを「かく」という行為は、思索や感性を伴う活動として、今後ますます重視されると思います。

本県では、石川県書写書道教育連盟が、授業実践を通して、熱心な研究活動を推進していると同っております。とくに幼稚園から大学まで一貫性のあるカリキュラムのもと、確かな文字を書く力を育成するとともに、適切な学習方法を選択しながら、課題を個別や共同で解決する力、また、そのことを通して、広く考え、適切に行動していく力の育成にも尽力されております。情報化社会の中で、書写書道教育が重みを増し、本連盟に対する期待もますます高くなっております。

最後になりましたが、石川県書写書道教育連盟及び本大会関係者の皆様のご労苦に対し深く敬意を表するとともに、本大会の成功と連盟の一層の発展をお祈りし、祝辞といたします。



石川県書写書道教育研究大会に寄せて

加賀市教育委員会教育長

藪谷 栄一

第8回石川県書写書道教育研究大会が、加賀市を会場に開催されますことを、お祝い申し上げますとともにご参会の皆様を心より歓迎したいと思います。

世はまさに教育改革の時代であります。現行指導要領が定められるに当たって“新学力観”が打ち出され、昨年7月、「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」、中央教育審議会による第1次答申が行われました。その中で、これからの教育は「ゆとり」の中で「生きる力」を育成することが大切であるということを強調しております。そして本年1月24日、文部省が、大胆な「教育改革プログラム」を発表しました。特に、「教育制度の革新と豊かな人間性の育成」のため、教育内容の再構築を行うことや教員の資質向上について述べております。

このような時代背景の流れのもと、本研究大会に寄せる期待に大きいものがあります。国際化、情報化が進展する昨今、豊かな人間性を育成すること願えば願うほど、これまでもまして、我が国の言語や伝統、文化を大切に、特に学校教育においては、これがための基礎・基本を徹底しなければならないと思います。

学習指導要領には、小・中・高へと発達段階に即した“書写に関する事項”が示されておりますが、大会テーマは“基礎・基本をふまえて豊かな心を育てる書写書道教育”であり、まことに時宜をえたものであると思っております。しかし、秒進分歩と言っても過言でない情報通信手段の目覚ましい進展の時代であります。それだけに、ともすると文字を美しくいねいに書く機会がますます少なくなっていることが心配されるようになってきております。従って、言語の文字としての機能性を重視し、文字感覚を育成し、書写能力を生活の中に生かす態度を育てることが、きわめて重要になってきていると言えましょう。

このような意味においても本研究大会開催の意義は大きく、日頃の実践を持ち寄り、ともに学び合い、教え合い、そして高め合う機会となるよう、活発な議論が展開され、今後の書写書道教育に生きて働くことを願ってやみません。

なお最後になりましたが、本研究大会開催にご努力頂いた方々、授業や研究発表をなされた先生方に心より感謝申し上げ、深く敬意を表します。そして、石川県書写書道教育連盟のますますの充実、発展をお祈りしながら、本研究大会に寄せることばとさせていただきます。

第8回 石川県書写書道教育研究大会要項

1. 研究大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
—— 一人ひとりがめあてを持ち、文字意識を高める授業をめざして ——

2. 期日 平成 9年 11月 21日 (金)

3. 主催 石川県書写書道教育連盟

4. 共催 加賀市教育委員会

5. 後援 石川県教育委員会・石川県私立幼稚園協会

6. 会場 加賀市立南郷小学校・加賀市市民会館

7. 記念講演 演題 「実験を通して考える書写・書道」

—— 「手本が無くても書ける」をめざして ——

講師 宮澤正明先生 : 山梨大学助教授 :

: 全国大学書写書道教育学会常任理事 :

8. 日程

10:00	10:30	12:00	13:50	14:35	:45	15:15	16:30
受付	研究協議会 I (加賀市市民会館)	昼食・移動	対 公開授業 (南郷小学校)	対 研究協議会 II		全体会 記念講演	

9. 研究協議会 I (10:30~12:00) 加賀市市民会館

内 容	提 案 者
全国の実践に学ぶ (中学校・高等学校)	岩田 稚子 (金沢市立金石中学校教諭) 石浦 義彦 (県立金沢伏見高等学校教諭)

	助 言 者	司 会 者	記 録 者
研究協議会Ⅰ	石川県教育委員会指導主事 表 純 一 金沢市教育委員会指導主事 岡 朝 子	県立金沢中央高等学校教諭 久 田 英 夫	小松市立南部中学校教諭 井 田 洋 美 県立小松高等学校講師 本 間 千 恵

10. 公開授業 小学校(13:50~14:35)

校種	年	題 材 名	授 業 者
小学校	4	文字の中心 「平和」	北村千恵(加賀市立南郷小学校教諭)

11. 研究協議会Ⅱ (14:45~15:15)

	助 言 者	司 会 者	記 録 者
研究協議会Ⅱ (公開授業)	石川県教育センター主任研修指導主事 町 出 憲 子 金沢市立中央小学校教諭 林 道 子	加賀市立作見小学校校長 西 出 和 由	津幡町立刈安小学校教諭 丹 羽 栄 美 加賀市立東谷口小学校教諭 片 村 順 子

12. 全体会(15:15~16:30) 司会 松本 勝雄(中島町立熊木小学校長)

- ・挨拶 石川県書写書道教育連盟会長
- ・祝辞 石川県教育委員会教育長・加賀市教育委員会教育長

- ・記念講演 宮澤正明先生(山梨大学助教授)

演題 「実験を通して考える書写・書道」

—— 「手本が無くても書ける」をめざして ——

第4学年国語科書写学習指導案

児童 加賀市立南郷小学校 4年19名
授業者 北村千恵

1. 単元 文字の中心「平和」
2. 目標
 - ・文字の中心や字形に注意して書くことができる。
 - ・自分の課題を見つけ、進んで学習することができる。
 - ・毛筆の学習を生かして、硬筆で正しく書くことができる。
3. 指導計画（総時数3時間）
 - ・第1時 文字の中心や字形に注意して「平」を書く。
 - ・第2時 文字の中心や字形に注意して「和」を書く。（本時）
 - ・第3時 「平和」を消書し、硬筆練習をする。

4. 指導にあたって

第4学年の書写の指導については、第3学年における初歩的な技能の定着をはかりつつ、文字の組み立て方に注意して文字の形を整えて書くことの指導が引き続き必要である。漢字のへんとつくり、かんむりとあし、かまえ・によ・たれなどと他の部分との組み立て方について理解し、文字の形を一層整えて書けるようにさせることが大切である。

低学年の頃は、文字を正しく丁寧に書こうと意欲的に取り組んでいた児童も学年が進むにつれ、文字を書くことに慣れ、書く速さも増してくる。しかし、正確に書くことへの意識が低くなり、文字の乱れが目立ち始める。本学級の児童についても同様のことが言える。4月から試書をして課題をつかむことをやってきた。少しずつ児童の中に文字意識が芽生えてきたように感じているが、まだまだこれからといったところが現実である。筆使いもまだまだ個人差があり、必要に応じて個別指導している。

本単元では、中心になる画がある場合とない場合の中心の取り方と文字の組み立て方を学習し、整った文字が書けるようにしたい。また、一人一人が進んで学習できるよう自分のめあてをしっかりと持たせて取り組ませたいと思っている。さらに、毛筆で学習したことが生かせるよう、授業の中で硬筆で書くことも取り入れたい。

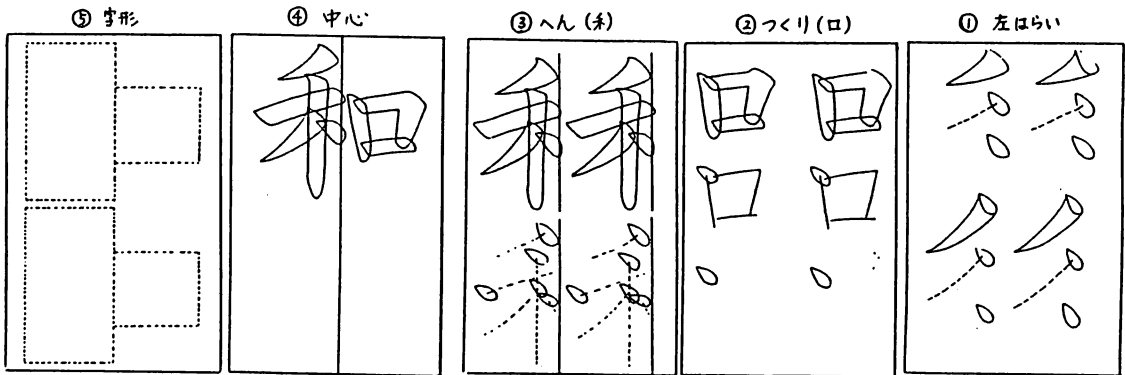
5. 本時の学習

- (1) ねらい
 - ・中心になる画がない場合の中心の取り方に注意し、へんとつくりの組み立て方に気をつけて書くことができる。
 - ・自分の課題を見つけ、進んで学習することができる。

(2) 展開

	学習活動	教師の支援	資料	
つ か む 3 分 調 べ る 15 分 深 め る 20 分 ま と め る 7 分	1. 学習のめあてを知る。	・前時の学習を想起し、これからの課題を持てるようにする。	拡大文字 「平」	
	文字の中心や字形に注意して書こう。			
	2. 教材の確認をする。	・「和」の筆順を確かめながら、共に大きく空書する。 ・姿勢や筆の持ち方に気をつけるよう促す。	点画ピース 学習カード	
	3. 「和」を試書する。 (半紙上半分に) (教科書を見ないで)			
	4. 手本と比べて、直したい所を話し合い、基準を知る。 ポイント(基準) ①へんとつくりの境目が中心 ②つくりの位置と大きさに注意			・点画ピースを操作して、基準に気付くよう働きかける。 ・基準は大まかにまとめ個々の気付きも大切にする。 ・一人ひとりのめあてを把握し励ます。
	5. 練習をする。	・個人のめあてにそったワークシートが選択できるよう、助言する。 ・机間巡視し、個別に助言する。必要な時は師範する。 ・各自のめあてを再確認するよう働きかける。 ・試書と清書を比較し、良くなった所の発表を促す。	ワークシート6種類	
	6. 清書をする。 (試書の下に清書)			
	7. 評価をする。 ・カード記入 ・話し合い			学習カード
	8. 硬筆練習をする。			鉛筆
9. 後片付けをする。	・学習したことが硬筆に生かせるよう助言する。			

<使用するワークシート>



<書写学習カード>

へん つくり 	硬筆でも書いてみよう。								
書写学習カード 一 名前 _____									
めあて 文字の中心や字形に 注意して書こう。									
ポイント よい◎だいたいよい○もう少し△ ①へんとつくりのさかい目に中心がくる。 ②「つくり」口「の位置と大きさに気をつける。									
						試書	清書		

硬筆でも書いてみよう。									
書写学習カード 二 名前 _____									
めあて 文字の中心や字形に 注意して書こう。									
ポイント よい◎だいたいよい○もう少し△ ①中心に気をつけて書。									
						平	和		

硬筆でも書いてみよう。									
書写学習カード 一 名前 _____									
めあて 文字の中心や字形に 注意して書こう。									
ポイント よい◎だいたいよい○もう少し△ ①五劃目を中心で二本の横画の真ん中を通る。 ②字形									
						試書	清書		

研究協議会 I (10:30~12:00) 加賀市市民会館

「全国の実践に学ぶ」〈提案者〉

(中学校・高等学校)

岩田 稚子 (金沢市立金石中学校教諭)

石浦 義彦 (県立金沢伏見高等学校教諭)

全国発表のビデオをもとに、中学校・高等学校では今、どのような授業を目指すべきか、参加者の方々とともにあるべき姿を探りたいと考えています。

*中学校(翻譯)：『行書の特徴』〈大妻中学校：全書研・東京大会〉

硬筆（フェルトペンや鉛筆）を用いて行書の特徴を理解させる授業です。

速書きによる字形のくずれを克服するために、行書を身近に感じ、習熟することが大切です。毛筆を用いずに細字を中心にすえて硬筆で行われた実践は、授業の新しい形態を示唆してくれています。

*高等学校(翻譯) 『漢字の創作』〈高知南高校：全書研・高知大会〉

広い体育館でグループでの共同制作。仲間と大作に挑戦することにより、仲間をみつめなおす機会となり、仲間の良さを再発見することもねらわれています。楽しくのびのびと書く生徒の姿から、授業の展開例の一つとして、「楽しさ」を主眼にすえた授業を考えてみたいと思います。

MEMO

研究誌上発表

楽しい書写の授業をめざして

珠州市立正院小学校

西本 陽子

1. はじめに

週1回の書写の授業、行事で欠けたり、展覧会や応募作品の提出に追われたりでなかなか計画通りに進まない。今年は、高学年で少人数ということもあり、例年よりはゆとりを持って取り組んでいるように思えるがやはり遅れがちである。準備から毛筆、更に硬筆までを1時間の中に組み込むことはなかなか難しい。準備や後始末はどうしても休み時間も利用せざるを得ないのが現状である。そこで、①墨汁の利用②1時間に練習3枚③筆洗いは専用のバケツ内で④名前は清書のみ⑤清書は新聞に挟むなど、時間短縮に努力している。

書写は技能の向上もさることながら、自分なりの課題を持ち、意欲的に取り組むことが大切だと考える。書写に親しみ、文字を書くことに興味関心を持って取り組んでくれるようにと支援していきたいと思っている。そこで、①水書板の利用②範書③点画模型④ワークシート⑤拡大手本⑥机間指導（示範・声かけ）などを心がけている。

2. 学級の実態

(1) 姿勢

前かがみの子が多い。

(2) 筆の持ち方

ほとんどの子が単鉤法である。

(3) 筆使い

穂先の方法を意識していない。

(4) 筆順

既習の文字であっても自己流の筆順で書く。

(5) 硬筆とのつながり

ノートの文字については、無頓着である。

(6) 意欲態度

自分のめあてに対して一生懸命取り組む。素直な子供たちで、一言声をかけるとすぐに気をつけて書ける。（元に戻るのも早い）

(7) その他

塾に通っている子は2人。書写は苦手という子は、四分の一。

3. 実践例

第5学年 国語科書写学習指導案

指導者 西本 陽子

1. 単元名 文字の組み立て方（によ）「放送」

2. 目標
- ・しんによの筆使いや文字の組み立て方のポイントを理解させ、文字を整えて書くことができる。
 - ・によと上の部分の組み立て方や筆順に注意して、字形を整えて書ける。

3. 指導の当たって

毛筆については、「文字の組み立て方に注意しながら、文字の形を整えて書くこと」や「文字の大きさなどに注意しながら、字配りよくかくこと」がねらいとなっている。3年・4年と硬筆を使用したの文字の組み立てを学習してきた。しかし、学習内容の増加に伴い、文字も増加したり、書く速度が要求されたり、慣れも手伝ってか、あまり組み立てには留意していないように見える。中でも、によは筆使いも難しく、字形を整えにくいと思われる。

全体的に、集中して熱心に学習に取り組む学級である。文字を丁寧に、字形を整えて書こうとする意欲が見られる。穂先まで神経を届かせるよう、始筆・終筆などの筆使いも常に指導している。

しんによの形について、点画模型やワークシートなどを用いて意識化し、各自のめあてを持って練習させたい。また、文字を整えて書こうとする意欲を持ち、お互いに上達を認め合い、書く喜びを味わわせたい。

4. 指導計画（総時数3時間）

- 第一次 文字の組み立て方や字形に注意して「放」を書く
第二次 文字の組み立て方や字形に注意して「送」を書く（本時）
第三次 「放送」を清書し、硬筆練習をする

5. 本時の学習

- (1) ねらい・しんじょうの筆使いを知り、「送」の字形を整えて書くことができる
・各自の課題を持ち、進んで学習できる

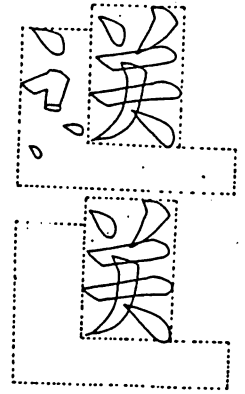
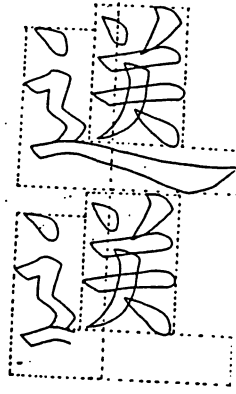
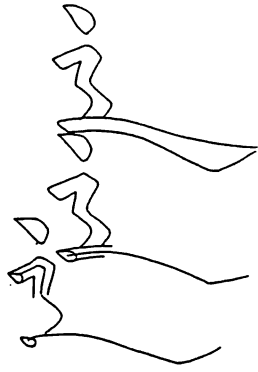
(2) 準備

点画模型・ワークシート・拡大教材・水書板

(3) 展開

学 習 活 動	児 童 の 活 動	支 援 と 評 価
1 本時の目当てをつかむ	組み立て方に注意して「送」を書く	・筆順を確認する
2 試書する	手本と比べる ・しんじょうの形や筆使い ・「送」の大きさや位置 ・組み立て方	・姿勢や筆の持ち方に気をつけさせる
基準を話し合い、めあてを持つ	中心よりやや左側に始筆 しんじょう2画目の止まるところに「送」の右端がくる しんじょうは三折法で書く	・作品例を元に基準に気づかせる ・点画模型などで理解を助ける
3 練習し、批評する	自分でワークシートを選択し、練習する 半紙練習をし、批評する	・ワークシートにあまり時間をかけすぎないように留意する
4 まとめ書きをする	めあてにそって成果が表れるように書く	・振り返りカードに記入させる
5 本時を振り返り、次時のめあてをつかむ 後片付けをする	良くなったところを発表する ・文字の形が良くなったよ ・しんじょうの書き方がわかったよ ・清書をしたいな	・お互いに上達を認め合い書く楽しみを味わわせる *めあてが達成できたか

<使用したワークシート>



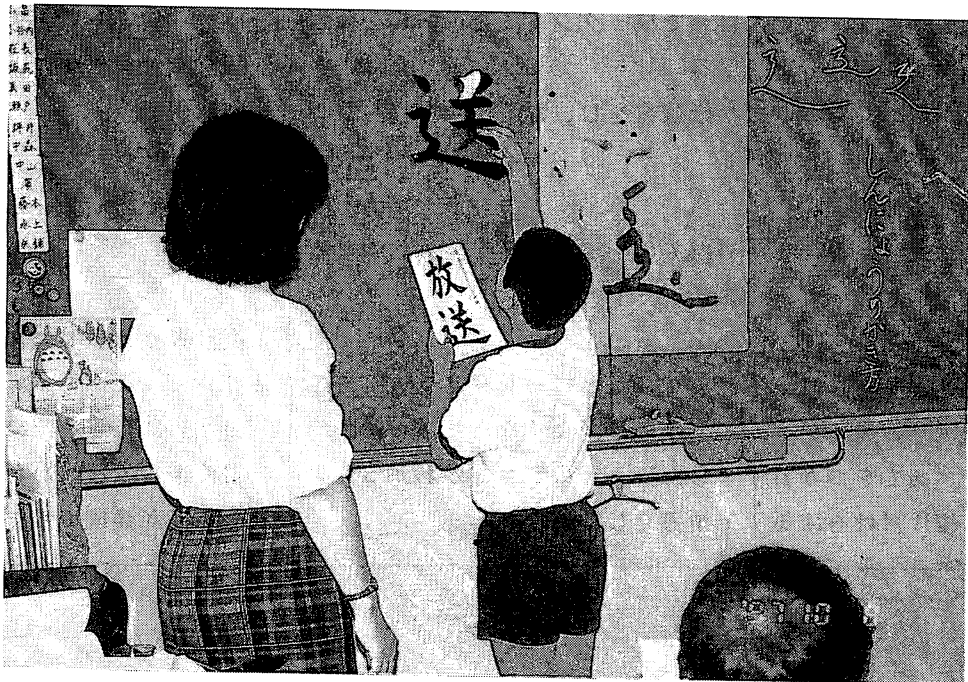
<児童の作品とふり返しカード>



ふり返しカード

指示	①	②
中心よりやや左側に始筆する(一目目)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目の大きさはよいか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目がしんにょうに安定して来ているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
筆使い(始筆・送筆・終筆)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学習態度・意欲(い・し・ょうりんのい・や・か)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
姿勢・筆の持ち方はよいか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④思 6画めがよかけたと見た。しんにょうのF入さがる 呼吸がよか下へいよ)にできなかつた。		

<授業の様子>



4. 授業を終えて

- ・「しんにょうって難しい」とっていた子たちが「ちょっと上手になったよ」「しんにょうの書き方がわかった」などと話していた。自分なりに満足していたようだ。
- ・しんにょうの2画目は斜めに入ること・最後ははらうようにすることを水書板で示したが、点画模型や、ワークシートでももっと意識化させれば良かった。
- ・試書の下に清書をさせれば上達が目でわかり、成就感も増したことと思われる。
- ・水書板に書いたり、点画ピースを動かしたりする事が楽しい様子であった。
- ・ワークシートは始めは1人を除いてみんな全部書いてあるものを選んでいたが、だんだん自分にあつためあてのものを選ぶようになっていった。
- ・基本について意識しながら、課題に取り組むよう声かけをしたが、めあてに集中するためには邪魔になるのではないだろうか。何か良い方法がないか今後検討したい。

5. おわりに

楽しい書写の授業のためには、やはり自分なりのめあてを持って取り組むことが大切だと思う。その手だてとして、視覚や感覚を通してめあてを明確にすること・めあてを達成するための段階を踏んだ練習法の工夫・お互いを認め合う暖かい学級づくりなど、他の教科にも共通する当たり前のことではあるが再確認した次第である。

また、授業の準備や後始末、お手本を置く場所などから、広い机のある書写専用の部屋があると便利だと思う。



「三華亭と蘭亭序」 雑考

石川県立内灘高等学校 藤井 一郎

金沢市の東南に成巽閣がある。はじめは（巽殿）と呼ばれていた。これは造営した13代前田斉泰が金沢城の辰巳の方角にあったので（辰巳殿）と命名しようとしたが、その名称は奇しくも、この屋敷の主人公たる12代斉広の正室、真龍院の生家である五摂家のひとつ鷹司家における殿舎と同じ名称であることから、それをはばかって（巽殿）としたという。明治7年（1874）兼六園が殿様の庭から大衆の公園となったときに、斉泰自信によって（成巽閣）と改められた。

明治24年（1949）この成巽閣の前庭の一面に全国でも珍しい煎茶の茶室（三華亭）が東京から移築された。この三華亭も13代斉泰が江戸に造営したものであるが、いつ、どこに建てられたか資料が見当らず、現時点においては正確にはわからない。『兼六園—その歴史と文化』には、「嘉永5年（1852）頃、斉泰が江戸本郷邸内に建てた煎茶室で、明治4年根岸の前田家別邸に移築されて（三華亭）と名称された」という。『加賀の茶室』で三華亭を解説した大島宗吉氏は「嘉永年間に江戸根岸の別荘に斉泰が当時の手法の粋を集めて造らしめたものである。そして、三華亭という名称も斉泰自らつけたものである」という。それも昭和5年になって駒場邸へ移築され昭和20年第二次世界大戦の終結とともに駒場邸は米軍に接収されることとなり、茶室は解体された。最後の行き先は、やはり金沢で昭和24年（1949）斉泰が造営した成巽閣の敷地内に再建された。百数十年を経て、斉泰が造営した金沢の成巽閣内に、斉泰が建築した江戸の茶室が移築されたことに、不思議なご縁を感じざるを得ない。

三華亭の煎茶席と香煎席の間に4枚の黒漆板戸が入っている。螺細で枠取りした中に、右より1枚ごとに四君子の梅、竹、蘭、菊が金蒔絵され王羲之の（蘭亭序）の一節が1枚の建具に5字2行、10字ずつ金の高蒔絵をして綴られている。

是日也天朗 氣清惠風和。暢仰觀宇宙 之大俯察品。類之盛所以 遊目騁懷極。
視聽之娛信 可樂也。 張元觀

この日は、天気晴朗にして空気はすみ、かぐわしい風がのどかにわたっている。見上げて宇宙の大なるをみ、視線を下げて地上の万物を察すれば、目を遊ばせ懐いをはせ、ながら視聽の極みを尽くすごとくで、まことに楽しいこと、この上ない。とあって6行目、（懐）の下に足以の2字を欠いている。終わりに張元觀を記してあるが、これは筆者であ

ろうと思ひ、いろいろ調べたが、いかなる人物で、斉泰とどのような関係にあったかは不明である。知っている方は教えていただきたい。

三華亭に続く名勝、飛鶴庭の曲流は庭外の兼六園へと続いている。流れは蜿々と千歳台をめぐって霞ヶ池へ入っている。遠く中国の曲水の宴に因む（蘭亭序）の詩文を掲げた煎茶席がここに配られることになった。

曲水の宴とは、川の水を引いて九曲の流れを作り、人々はその左右に座って、川上から流れてくる觴（酒器、杯）に満たされた酒が自分の前に来るまでに詩を作るという風雅な遊びである。曲水の宴は古くから我が国に伝わっていたようである。昭和50年（1975）発掘調査によって発見された特別史跡、平城京左京三条二坊宮跡庭園は玉石を敷きつめた幅15メートル、総長55メートル、水深約20センチメートルの屈曲したS字形の園池が中心で、ここに酒杯を浮かべたり、詩歌を詠んだりして宴を催した奈良時代の公的な宴遊施設であったと考えられている。

王朝時代にも宮廷を中心に貴族達が曲水の宴を行っている。京都御所常御殿の板戸に曲水図が描かれていることから、窺い知ることができる。

後楽園は兼六園とともに日本の名園である。約280年前、岡山藩主池田綱政によって造られた池泉回遊式の名庭園で、延長400メートルにわたって芝生や植込みの間を曲水が続いている。園の中央に（流店）という古い建物がある。この流店において曲水の宴が催されていた。流店の中央に細い流れがあって、そこへ酒杯が流され、両側の縁に座っている人達は、自分の前に杯が来るまでに詩歌を詠んだ。中国の故事にならった曲水の宴が催されていたものと思う。屋根のある曲水宴の施設は現在ほとんど残っていないので、貴重な文化財である。

現在も古式にのっとり曲水の宴が行われている。京都の城南宮、九州の太宰府天満宮、富山県婦中町の各願寺での曲水の宴がそれである。各願寺の曲水の宴は、その昔、富山藩主が花見にみえた時、曲水の宴が催されたときく。近時、町おこしの一環として復活し、町を挙げての一大イベントとなっている。境内の曲水の水辺に富山県の歌人達が座って歌を詠み、十二単、冠姿の平安絵巻を再現している。兼六園の曲水においても「蘭亭序に出てくる、中国の故事にならって、曲水の杯を浮かべて詩歌を詠むなどの雅びの遊びも催されたとも推察される」と『兼六園—その歴史と文化』記されている。

蘭亭の曲水図は画家、文人達によって多く描かれている。池大雅の蘭亭修禊図、富岡鉄斎の蘭亭の図、円山応挙の蘭亭曲水宴図等は有名である。王羲之の（蘭亭序）に興味と関心のある者にとっては、曲水や、曲水の宴図及び曲水の宴を見て歩くことは楽しいことである。

（蘭亭序）は王羲之の行書の作品である。古来、書を学ぶ者が敬仰している偉大な書人である。書跡は手本として、多大な信頼を寄せられている。今日、我が国で市販されている法帖の売れ行きのうち欧陽詢の（九成宮醴泉銘）と、この王羲之の（蘭亭序）は長らく

トップの座を争ってきているときく。多くの人達に支持されている（蘭亭序）と、その作者である王羲之について、唐の何延之の『蘭亭記』を参考にして述べてみる。それによれば（蘭亭序）は王羲之（晋の右將軍、会稽内史）の書いた詩集の序文である。羲之は当時の貴族社会に大きな勢力をもっていた王氏の出身で、もの静かな名賢であった。山水を好み書をよくし、とりわけ草隸に秀れていた。

晋の穆帝、永和9年（353）3月3日、羲之の47歳の時、会稽山陰の名勝蘭亭に遊び、当時の名士41人（一説には42人）とともに、祓禊の礼を修め、次いで流觴曲水の宴を催した。その会において作られた37篇48首の詩に彼が序文を書いた。28行324字で重出する文字があると、みな別の形に作って書いている。中でも（之）という字は最も多く20余字あるが、すべて変化して書いてあってひとつとして同じものがない。

羲之がこれを書いた時、神の助けがあったとか。他日、幾度となく書き改めてみたが、最初に書いたものに及ばなかったのが神品とも言われている。羲之自信も、この書を大切に蔵し家宝として子孫に残した。この書が代々伝えられて7代の子孫、智永に至った。

智永は羲之の第5子、徽之の子孫である。仏門に入り、永禪師と号していた。書に精勤し、いつも永欣寺の閣上で羲之の書を臨していた。使い古して書けなくなった筆は、一石ほど入る大きな竹の籠に捨てられていたが、その籠5杯がいっぱいになったという。こうして、およそ30年間閣上において真草千字文を書き、八百余本を諸寺に施入した。智永は百歳近くで亡くなったが、その臨終の時、遺書をすべて弟子の辯才に与えた。辯才は寝所の梁（はり）の上に秘密の物入れを作り、その中へ（蘭亭序）をしまっておくほど用心深かった。

王羲之の書をこよなく愛した唐の太宗は、国内の羲之の書を求め、書帖を購ひ集めた。ただ（蘭亭序）だけが手に入らなかった。やがて、これが辯才のところにあることを知り勅書をもって取りあげようとしたが、うまく逃げられた。太宗はどうしても諦められず、監察御史の蕭翼に取りあげるように命じた。策謀にすぐれた蕭翼は身分を隠して、辯才に近づき、だまし取った。蕭翼と辯才のやりとりは、まるで事件小説を読むようでスリールがあっっておもしろいが、ここでは紙面の都合で割愛する。

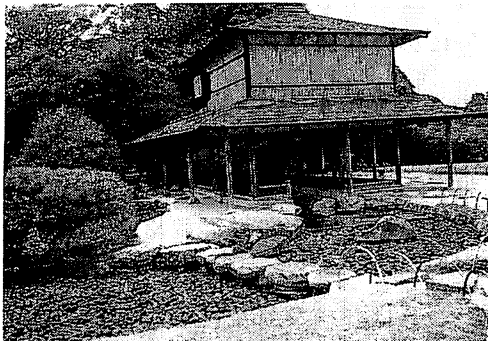
やがて、太宗が臨終にのぞむや（蘭亭序）を、あの世へ持っていきたいという。死後、太宗の棺に入れられて明陵に葬られ、真蹟はこの世から姿を消した。一説には唐末の乱に太宗の陵が盗掘され、その所在が不明になったともいう。

真蹟はこの世から姿を消したが、太宗は生前、搨書人（敷き写しなどの方法で模本を作る専門家）に模搨させたり、初唐の三大書家、虞世南、褚遂良、歐陽詢などに臨模させたりして、多くの模本を作っている。従って、現存する（蘭亭序）は、すべて模写されたものか、あるいは臨書されたものを基にしている。さらに、そこから石に刻し拓に取るなどの方法によって伝えられたものである。長い年月の間に模本も石刻も増加した。ちまたの説によれば蘭亭何百本というほど、多種多様な（蘭亭序）が伝存している。例えば宋時代

には士大夫は家に一石を刻するといわれるほど墓拓の類が無数にあった。宋の理宗は（蘭亭序）百十七種を収集し、游似も百種を収集したといわれている。

（蘭亭序）の大意について簡単に触れておく。永和9年癸丑、禊の行事のため会稽山陰の蘭亭に名士が集った。（禊の行事というのは旧暦の3月の最初の巳の日に、人々は川辺に行き禊を行う風習があった。禊とは宗教的な行事のひとつで、清流で水を浴び、身を清めて罪やけがれを拭い去る儀式である。しかし、いつしか3月3日に行うのが通例となり宗教性も薄れ、貴族達は川辺に集り、酒をくみかわしたり、詩を作ったりする風雅な社交の場となった）この地には、崇い山、けわしい嶺、茂った林、長くのびた竹があり、また清流の早瀬が左右にあって、その流れを引いて曲水を作り、そこに杯を浮かべ詩を作り打ち興じた。この日は、とりわけ清朗な天気恵まれ、自然を楽しむことができた。しかし人生の哀愁も感じた、その感が古人のものと同じであることを思い嘆息する。せめてもの記念として、今日この席に列した人々の名と詩を記録して、後世に残すことにすると。

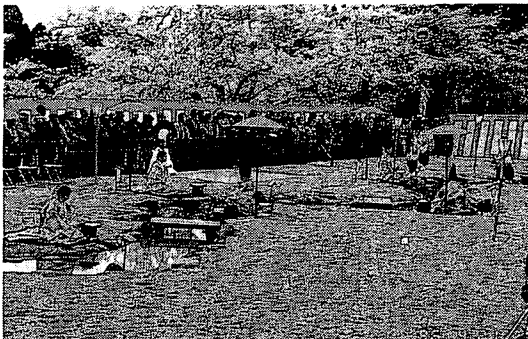
13代齊泰は書を、かの有名な市河米庵について学んでいる。米庵は幕末の書家で（蘭亭序）をよく書き、かつ、論じてもいる。文人大名齊泰も（蘭亭序）を学んだことであろう。彼が粹を集めて造営した三華亭に（蘭亭序）の一節が書かれていることは、こうしたことから、うなずける。この（蘭亭序）の曲水の流れは兼六園の曲水と抽象的に結ばれている。この文化遺産は私達の目の前にあるが残念ながら三華亭は非公開である。



<後楽園内の「流店」>



<特別史跡 平城宮跡庭園模型>



<富山県各願寺の「曲水の宴」>

最後に本校における蘭亭序の学習について述べる。

教科書は、大阪書籍の（高校書道Ⅰ）を使用し、第1学年の2学期に行書を指導している。興福寺断碑に次いで、蘭亭序を8時間学習している。教科書には神龍半印本を全文カラー印刷し折り込みで挿入してある。ここでは指導計画、指導案の提示よりも、筆者の指導のあり方について述べることにする。

指導にあたっては、まず、毎時の導入時に10分ないし15分間程、前述した蘭亭序の書道史上の話、王羲之の逸話、伝説、あるいは技法や特徴について話している。理論は生徒が興味をもって、話にくい様な眼差しを感じるよう、特に話術を工夫している。教科書の中の写真や図版、その他の参考物、掲示物も生徒が興味を引くので活用している。

学習は生徒を引きつけ、次に面白い楽しい授業であると気付かせ、少し字が上手になった様な気がすると感じさせ、更に週2時間の書道の時間が待ちどおしいというところまで持っていきたいと常に願っている。導入の10分か15分間で生徒に、さあ本時はやるぞというファイトを沸かせ、生徒が筆を自然に持ち上げるまでになればしめたものである。

次いで30分程を実技の時間、すなわち、臨書に当てている。筆者は楷書では（九成宮醜泉銘）を、行書ではこの（蘭亭序）に多くの時間をかけている。

指導の方法としては本時の始まる前に朱書した筆者の範書作品を黒板に掲示しておく。これは字の大きさ、全体のバランスを理解させるためである。また、本時の学習予定でもある。生徒が実技に入る前に黒板にチョークで学習する文字を解説しながら一字、一字の注意点、留意事項を説明しながら板書していく。特に必要な筆法については書写水書板を使って筆で書いてみせて説明する。教室の後方に指導机を設置し、ここで個別指導を行っている。朱液を持ちながら机間巡回していた時、生徒の夏の白い服に朱液があたり失敗した苦い経験がある。そこで机間巡回中、特に筆で指導する必要がある生徒、あるいは、朱書を希望する生徒に対しては、ここへ呼んで指導している。前方の教師教卓より後へ来る方がきやすい様である。

毎時間の終了時に、清書を1枚提出させている。これは評価な対象にもしている。次回（よく出来た。上手になった。このハネを工夫すると、もっとよくなる等々）激励の文句を付けて返すことにしている。

古来、行書の古典として王羲之の蘭亭序を多くの人達が使ってきている。それは作品に高い品格があつて、芸術性が感じられるからである。人間に人格があるように書には書格というものがあると、ある書家から聞いたことがあるが筆者も同感である。書聖王羲之の腕へ神が宿り、神品ともいわれる芸術性の高い、すばらしい作品が蘭亭序である。筆路も明快で、習いやすい。蘭亭序を臨書することによって行書の特徴と基本筆法を学ぶことができる。

臨書という作業に多くの時間をかける理由として、よい手本を、よく見ることによって古典を見る力、すなわち、鑑賞眼を高めることができる。また、臨書により腕を通して大

脳に働きかけ、表現力をつけることができる。頭での理解と腕での感得が得られるように理論と実技が脳と腕によってコントロールされる時、生徒は書道学習へ、スムーズに入っていけるのではないだろうか。そのようなことを考えながら、一人の生徒との出会い、1時間、1時間の出会いを大切にしていきたいと念願して授業を進めている。

< 参 考 文 献 >

- 特別名勝 兼六園—その歴史と文化—
書道研究 (1987年7月号)
書道研究 (1992年5月号)

肘の状態と硯の位置等について

-毛筆で横画が安定して引けない子供のチェック事項を考える-

金沢大学教育学部 押木秀樹

1. 肘はあげるべきか下げるべきか

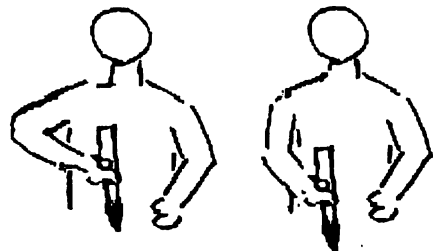
毛筆の学習を始めたばかりの人で、線がふらふらするという人がいます。もちろん、毛筆で書き慣れていない人は、どうしてもふらふらしてしまうかと思います。ただし縦画は、肩・腕・手首の運動から考えても各所の調整が必要な難しい運動と考えられますが、横画は比較的容易な運動と言えるでしょう。いつまでたっても横画さえふらふらするという場合、持ち方や構え方を確認してみる必要があると思われます。

一方、小学校の書写で毛筆の指導をしていらっしゃる先生からご質問をいただくことがあります。「筆を持つとき、ひじをあげるべきですか、下げるべきですか？」ということです。おそらく、塾に行っている児童生徒で異なったり、一人一人の癖の問題もあるのでしょう。

さてそれでは、肩から肘にかけての姿勢、構え方はどうあるべきなのでしょう。本稿では、書写指導を苦手とする人を対象として、この点について考えてみたいと思います。結論を先に申しますと基本的には、その子、その人の書きやすい姿勢で書けば良いのではないかと思います。また、書家を養成する場合などは、必ずしも書きやすい姿勢で書いた方がうまく書けるとは限りません。この後の話は、ごく一般的な場合を考えてみたいと思います。

やはり字を書くのですから、自然な姿勢、長時間書いていても疲れな姿勢が大切だと思います。その意味では、右の図のどちらが適していると思われますか？ 私は、右の方が自然だと考えます。私たちが適度な高さの机に向かって、硬筆筆記具で字を書く姿勢も右ではないでしょうか。私は、毛筆で字を書くときも基本的には同じなのではないかと考えています。合理的な方法で、学習すべきだ言い換えることもできるでしょう。

どちらが自然だと思いますか？



繰り返しますが、芸術的な書の作品を書く場合はこの限りではありません。ですから、塾などで書家の卵を養成する場合などは、肘をあげた書き方を教えるのも誤りとは言えませんし、それが書きやすいという人を無理に矯正させる必要もないと思います。一方、義務教育では、この問題は大事ではないかと思っています。というのは、現在の国語科書写の目標は、原則的には<実用のため>といっても良いと思います。とすれば、毛筆で学習した内容が硬筆にも生きるものであって欲しいと思います。ですから、毛筆の学習を特殊なものとして位置づけるのではなく、自然に硬筆とつながるものであって欲しいと思うわけです。その意味からも、硬筆筆記具で書くときの構え方、上の図では右側の構え方で、毛筆学習もおこなうべきではないかと思うのです。

2. 肘が上がる理由

さて、次に考えなくてはならないことは、「なぜ肘が上がってしまうのか？」ということです。原因を正さなくては、いくら指摘しても直らないでしょう。私は、この理由を、次の3点から考えています。

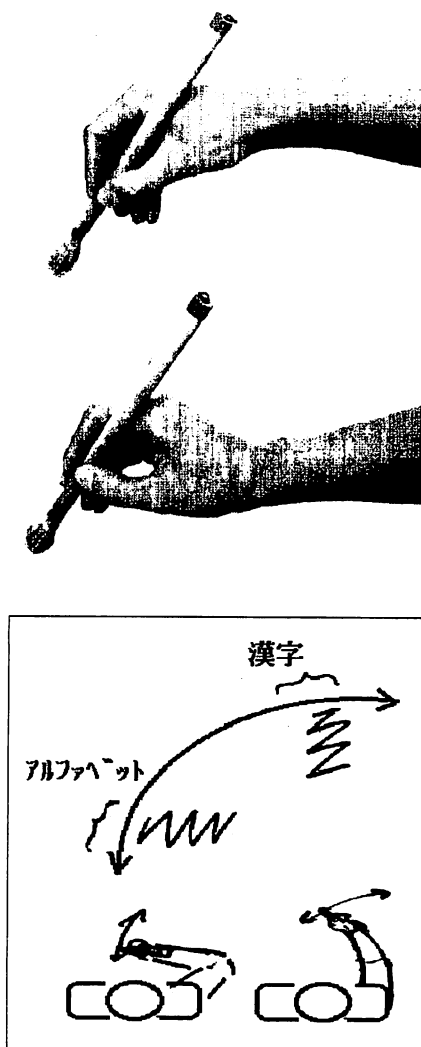
- ・ 持ち方の問題
- ・ 机の高さ
- ・ 硯の位置

2-1 筆の持ち方と肘の状態

まず、持ち方については、右の写真のように考えられます。いわゆる正しい持ち方（写真下）で持った場合、手首が下がり肘が上がることがありません。それに対し、筆管が親指と人差し指の間に入る持ち方（写真上）だと、手首が持ち上がり、必然的に肘が上がってしまうことになります。もし、この持ち方で手首が持ち上がっていない場合は、筆管の傾きをチェックして下さい。毛筆を習いはじめたばかりの子供で、筆管を傾けて妙に太い線を引いている場合も、ここに原因があったりするのです。

2-2 机の高さと肘の状態

次に、机の高さをチェックする必要があります。右図をご覧ください。漢字書字の場合、基本運動である乙型運動のためには、アルファベット書字の場合より、



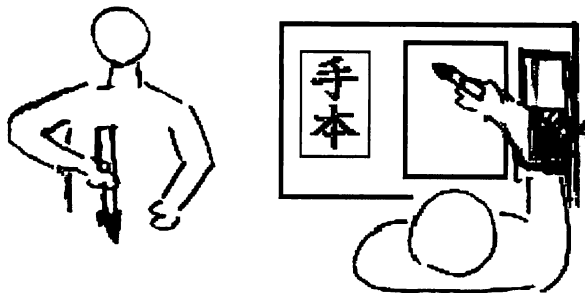
もともと机が低い方が望ましいのではないかと、筆者は考えています。さらに硬筆に比べ毛筆の場合は、指先から紙面への距離が長くなります。したがって、高めの机を使った場合、どうしても肘が上がりがちです。筆先の位置が手前に近づくにしたがって、肘が上がるような時は、机の高さを疑ってみると良いかと思われまます。

2-3 肘の状態と硯の位置

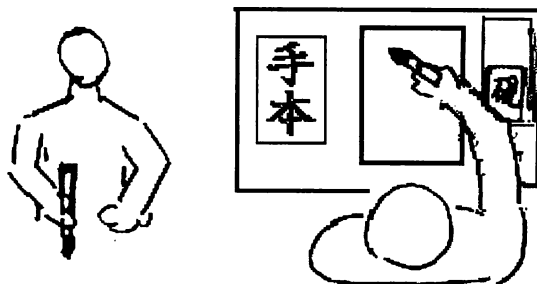
最後に、硯の位置について考えてみましょう。特に長袖の服を着ている場合、また小学校などで買った「お習字セット」の硯箱ごと使っている場合は、注意が必要かと思われまます。そこから肘にかけて、確認して欲しいのです。

右図上の斜線のところに硯がありませんか？ 大人の皆さんでも、子供の頃に袖を汚してしまった経験があるかも知れまません。しかし、ある程度の年齢になると、身体各部の位置を無意識にチェックしているのでしょうか、袖を汚す人は少なくなります。そのかわり、次の図のように肘をあげることで硯を避けている人が多いように思われまます。

硯が気になって、肘があがってしまう



自然な構え方



もちろんこのような書き方になれきっている人には、何の問題もないでしょう。しかし、初心者や普段ごく自然な構え方をしている人にとって、このことは不安定になる原因になると考えられます。

2-4 前の子の肘を汚さないために

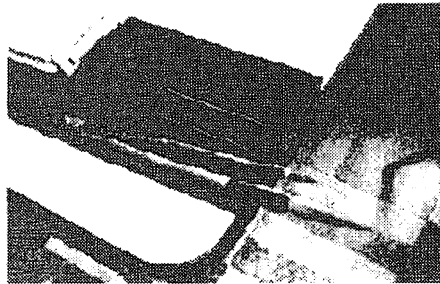
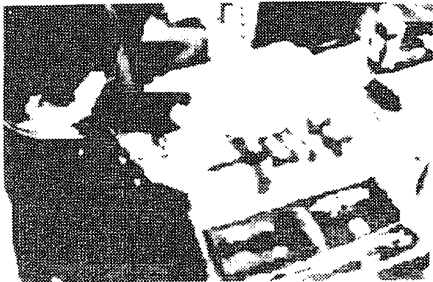
もう一つ関連して気になることがあります。これは、小学校などで一度でも毛筆書写の指導を担当されたかたならおわかりのことと思います。次ページの写真右上のように、肘を汚さないように硯をぎりぎりに前におくと、今度は前の児童の肘に筆が当たってしまうという問題がおきます。皆さんも子供の頃、肘で後ろの子の筆を落としてしまい、自分は

長袖シャツを黒くしたという経験がないでしょうか？ これを防ぐために、小学校の先生がたは前図の斜線の位置に硯を置くよう指示しがちです。写真左上は、ある県の書写教育研究会の資料から抜粋した写真です。この県は、大変書写指導において進んでいる県です。しかし、肘・そでの位置に硯があります。さて、どう指導しますか？ 肘を上げさせる？ それとも、前の子の肘が当たっても気にしない？？ 本来の解決方法は、教室を広くする、いち教室の子供の数を減らすというのがもっとも適切な方法かも知れません。

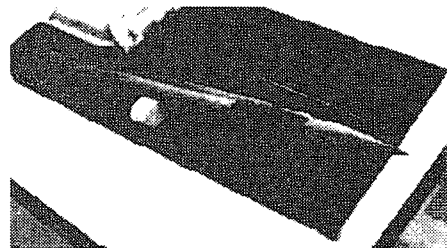
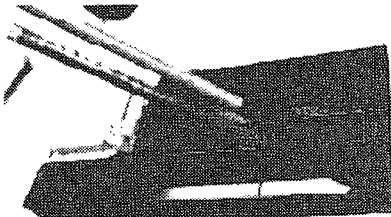
小学生用の習字セットにもいろいろな工夫が凝らされたものがあります。写真右上のものは、どうしても肘があがってしまう位置に硯が来てしまいます。それに比べて下のものはその心配がありませんね。もし、上のような場合でも、すり減った消しゴムなどを、筆の下の方に挟むなどすれば対応できますから、心配はいりません。ちなみに写真左上の学校でも、こういった工夫をしていることがうかがえます。

まとめとして、私たち自身、また子供たちには特に、練習しやすい状況で練習させてあげたいと思うわけです。また、悪いところを注意するのみでなく、その原因・理由から対処していくことが必要だと思われまます。机が狭いということも問題ですし、硯箱の形も問題かも知れませんが、工夫することで何とか乗り切っていきたいものです。

この位置に置くことが多い。そうでないと前の子に当たってしまう。



こんな硯箱もありますが、そうでなくとも消しゴムでもはさんでおけば！



MEMO

連 盟 の あ ゆ み

連 盟 役 員 一 覧

大 会 役 員 一 覧

連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させ
(昭和62年) る。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ [金沢大学教育学部書道演習室]
(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 石川県書写書道教育連盟設立総会 [ホテル六華苑]
(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>
顧問 南 和男<石川県教育長>
相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清

会長 藤 則雄<金沢大学教育学部長>
副会長 [石川県教育委員会学校指導課長] 三宅正敏
[金沢市小学校教育研究会書写部長] 河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
[金沢市中学校教育研究会習字部長] 大野重幸<金沢市立金石中校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長] 佐藤政俊<金沢女子高校長>
[石川書写の会会長] 山田泰正<鹿島町立越路小校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 法水光雄<金沢大学助教授>

理事長 [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 兼 任
副理事長 : 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>
: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長>谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>
: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>
: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>

監事 吉田一郎<小松市立向本折小校長>
木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>

理事 : 県教委学校指導課:
[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫

*金沢地区

: 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
: 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
: 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
: 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
: 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>

*加賀地区

: 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長>川筋登史己<向本折小教頭>市村良二<木場小教諭>
: 中学校部: 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>

- : 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭>北室正枝<金沢西高講師>
- : 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>
- *能登地区
- : 小学校部: 西野和代<天神山小学校長>福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
- : 高校部: 齋喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

- : 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>
- : 副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
- : 会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
- : 研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>
- : 会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭>大坂育代<湯野小教諭>
- : 研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>
- : 調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭>西川真理<野々市小教諭>

11.15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
 ~17・平成元年度林檎杯全日本書道教育部門会《後援》

12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12.10 『石川県書写書道教育』(創刊号)発行

1990. 5.18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成2年)10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号)発行

11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小・立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
 第3回理事会

1991. 2.23 第4回理事会

(平成3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号)発行

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10.30 『石川県書写書道教育』(第4号)発行

11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]
 第6回理事会

1992. 3.26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成4年) 3.30 『石川県書写書道教育』(第5号)発行

5.28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10.20 『石川県書写書道教育』(第6号)発行

11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]

第9回理事会

1993. 3.30 『石川県書写書道教育』(第7号)発行

(平成5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11.18 第4回石川県書写書道教育研究大会
[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
第11回理事会

1994. 3.31 『石川県書写書道教育』(第8号)発行
(平成6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]
第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会 [小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]
第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号)発行
1995. 3.30 『石川県書写書道教育』(第10号)発行
(平成7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]
9.20 『石川県書写書道教育』(第11号)発行

10.19 第6回石川県書写書道教育研究大会 [ラビア鹿島・鹿島町立越路小学校]
第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号)発行
(平成8年) 4.25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 『石川県書写書道教育』(第13号)発行

11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]
第18回理事会

12. 6 第7回石川県書写書道教育研究大会反省会

1997. 3. 『石川県書写書道教育』(第14号)発行
(平成9年)
4.23 第60回石川県書写書道教育懇談会 [金沢大学教育学部]
5.20 第61回石川県書写書道教育懇談会 [金沢大学教育学部]
6.10 第62回石川県書写書道教育懇談会 [金沢大学教育学部]

第8回石川県書写書道教育研究大会経過報告

6.25 第19回理事会 [六華苑]
第8回石川県書写書道教育研究大会要項決定
7. 5 第63回石川県書写書道教育懇談会 [小松市立能美小学校]
7.10 第8回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会 [加賀市立南郷小学校]
8.10 第1次案内発送

- 10. 8 第64回石川県書写書道教育懇談会（金沢大学教育学部）
- 10.15 第2次案内発送
- 10.31 公開授業指導案検討会〔金沢市立中央小学校〕
- 11. 5 第65回石川県書写書道教育懇談会〔小松市立能美小学校〕
- 11.14・21 研究協議「全国の実践に学ぶ」検討会〔石川県立金沢伏見高等学校〕
- 11.17 第8回石川県書写書道教育研究大会第2回実行委員会〔加賀市立南郷小学校〕

石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

- 1990. 11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会
 - 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
 - 豊かな体験を通して感動する心を求めて—
 - 文字意識を高めるための基礎基本のあり方—
 - 〔金沢市立南小立野小学校／野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校〕
 - ・公開授業（小学2年・中学1年・高校1年）
 - ・記念講演「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
久米 公先生（文部省視学官・千葉大学教授）
- 1991. 11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会
 - 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
 - 豊かな体験を通して感動する心を求めて—
 - 文字意識を高めるための基礎基本のあり方—
 - 〔野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校〕
 - ・公開授業（小学校1年・6年）養護学校（学校公開／クラブ活動等）
 - ・記念講演「児童生徒の心をひきつける具体的な指導法」
續木湖山先生（帝京大学教授）
- 1992. 11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会
 - 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
 - 豊かな体験を通して感動する心を求めて—
 - 文字意識を高めるための基礎基本のあり方—
 - 〔金沢市立鳴和中学校〕
 - ・公開授業（中学校1年）
 - ・記念講演「学習指導の最適化のために」
久米 公先生（千葉大学教授）

1993. 11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

—豊かな体験を通して感動する心を求めて—

—文字意識を高めるための基礎基本のあり方—

[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

・公開授業（小学校3年）（高等学校1年）

・記念講演「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」

田中 東竹先生（実践女子大学教授）

1994. 10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

—文字意識を育て自ら学ぶ意欲を高める書写指導のあり方—

—古典との出会いを大切に感動を分かち合う心を求めて—

[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]

・公開授業（小学校6年）（高等学校1年）

・記念講演「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲を高める書写書道教育のあり方」

柳下昭夫先生（東京家政大学講師・前教育課程審議会委員）

1995. 10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

—知的な遅れを持つ生徒における余暇指導—書道を通して—

—自己批正とペア学習を生かし、文字意識を高める書写学習のあり方—

[ラピア鹿島・鹿島町立越路小学校]

・公開授業（小学校5年）研究発表（養護学校）

・記念講演「漢字は生きている」

浦野俊則先生（二松学舎大学教授）

1996. 11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

—書きたい意欲を持たせるために—

[金沢市立弥生小学校・石川県立中央高等学校]

・公開授業（小学校4年）（高等学校2年次）研究発表（中学校）

・記念講演「意欲を高めるための書写書道教育」

平形精一先生（静岡大学教授）

平成9年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>

顧問 寺西盛雄<石川県教育長>

相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 水田茂良 横西 清

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 ☆河本隆成

会長 藤 則雄<金沢経済大学教授・前金沢大学教育学部長>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長]	☆福田繁機
[石川県私立幼稚園協会理事長]	源 通 <妙源寺幼稚園園長>
[金沢市小学校教育研究会書写部長]	☆福田芳子<金沢市立東浅川小学校教頭>
[金沢市中学校教育研究会書写部長]	富樫慶樹<金沢市立小将町中学校教頭>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	田畑武正 <県立津幡高等学校校長>
[石川県特殊教育諸学校校長会代表]	☆米田友和 <県立平和町養護学校校長>
[石川書写の会会長]	由雄捷悦 <津幡町立津幡小学校校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	押木秀樹 <金沢大学教育学部助教授>

理事長 押木秀樹< 兼 任 >

副理事長：幼・保部：

：小学校部： 林 道子<金沢市立中央小学校教諭>[市小教研書写副部長]
丹後誠仁<鹿西町立能登部小学校校長>
永井志津子<七尾市立小丸山小学校校長>
北野勝彦<小松市立能美小学校校長>

：中学校部： 桶成好江<田鶴浜町立田鶴浜中学校教諭>

：高校部： 林 昭悦<県立津幡高等学校教諭>

：盲・弱・養護学校部：☆高桑 俊<県立ろう学校教頭> [県特殊教育諸学校
教頭会会長]

監事 奥井絹江<七尾市立徳田小学校校長> 松本勝雄<中島町立熊木小学校校長>
中山武久<県立金沢泉丘高校教諭>

理事

*石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 帽子山瑞枝<七尾市立能登部小学校指導主事>

[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 表 純一 <学校指導課指導主事>

*金沢地区

- : 幼・保部： 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部： 大浦 努<花園小学校教諭> 中川晃成<菅原小学校教諭>
- : 中学校部： 福島絹子<長田中学校教諭> 古本佳世<芝原中学校教諭>
- : 高校部： 石浦義彦<金沢伏見高校教諭> 永江芳教<金沢商業高校教諭>
久田英夫<金沢中央高校教諭>
- : 大学部： 北室正枝
- : 盲・ろう・難聴部：

*加賀地区

- : 小学校部： 阿戸壮一郎<小松市教委学校教育課長> 川筋登史己<犬丸小学校校長>
☆西出和由<作見小学校校長>
- : 中学校部： 小座間美智子<東和中学校教諭> ☆高市比呂子<錦城中学校>
- : 高校部：

*能登地区

- : 小学校部： 福田教導<越路小学校校長> 濱 和子<能登島小学校教頭>
- : 中学校部： 山田寿一 <七尾地方教育事務所管理主事>
- : 高校部： 蝦喜代子<県立水産高校教諭> 大場豊治<七尾城北高校教諭>
- : 盲・ろう・難聴部： 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長： 永江芳教<金沢商業高校教諭>
- : 副事務局長： 中川晃成<菅原小学校教諭> 岩田稚子<金石中学校教諭>
- : 庶務部：
 - 部長・八田和幸<浅野川中学校教諭> 副部長・山口雅美<額小学校教諭>
 - 部員・北村千恵<南郷小学校教諭> ・山沢聡美<中海中学校教諭>
 - ・柿木千鶴<松南小学校教諭>
- : 会計部：
 - 部長・佃さえ子<美川小学校教諭> 副部長・西尾恵美子<福岡小学校教諭>
 - 部員・水上真由美<県立医王養護学校教諭>
- : 研究調査部：
 - 部長・板橋法子<那谷小学校教諭> 副部長・北野京子<中条小学校教諭>
 - 部員・寺井純子<日置小学校教諭> ・坂井雪絵<大根布小学校教諭>
 - ・唐津清美<金沢北陵高校講師> ・西脇良樹<北星小学校教諭>
- : 会報部：
 - 部長・岸瑞代<大聖寺高校講師> 副部長・田中学<松任高校教諭>
 - 部員・中辻育代<浜小学校教諭> ・塩田由香<北星中学校講師>
 - ・谷口美晴<作見小学校教諭> ・磯野美佳<金大付属中学校講師>
 - ☆新谷幸一<北陸学院高校講師> (☆は新任)

第8回石川県書写書道教育研究大会役員

—敬称略—

顧問	金子曾政	寺西盛雄				
参与	北西正二 吉田一郎	坂口 敏 森川登夫	田島庄吉 木本峰生	久田久信 谷村修次	氷田茂良 南 進	横西 清 河本隆成
大会長	藤 則雄					
副大会長	福田繁機 米田友和	源 通 由雄捷悦	福田芳子 押木秀樹	富樫慶樹	田畑武正	
実行委員長	北野勝彦					
副実行委員長	西出和由 桶成好江	林 道子 林 昭悦	丹後誠仁 高桑 俊	永井志津子		
実行委員	[部担当]	[企画研修部] (西出和由) (林道子) (林昭悦) (小座間美智子)				
		[庶務部] (浅田恵美子) (市村護) (岩崎信宏) (大音師亜子) (小座間美智子) (桂田周子) (北由起子) (高市比呂子) (竹中淳子) (田中百合乃)				
		[研究集録編集部] (板橋法子)				
		[記録部] (市村護)				
		[会計部] (高市比呂子)				
大会事務局	[事務局長]	永江芳教	[副事務局長]	中川晃成	岩田稚子	
○&ナ-7	[庶務部]	0八田和幸	s 山口雅美	北村千恵	山沢聡美	柿木千鶴
s&ナナ-7		中辻育代	唐津清美	塩田由香		
	[集録部]	0板橋法子	s 岸 瑞代	田中 学	谷口美晴	
		磯野美佳	新谷幸一			
	[記録部]	0北野京子	坂井雪絵	寺井純子	西脇良樹	
	[会計部]	0佃さえ子	s 西尾恵美子	水上真由美		

石川県書写書道教育連盟 規約

- 第 1 条 (名 称) 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第 2 条 (本部・事務局) 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第 3 条 (目 的) 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第 4 条 (事 業) 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- (1) 研究会の開催
 - (2) 会報の発行
 - (3) 関連する学会・研究会・内外諸機関等との連絡と協力
 - (4) 講演会・講習会の開催
 - (5) 調査研究
 - (6) その他必要な事業
- 第 5 条 (組 織) 本会は、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第 6 条 (役 員) 本会に、下記の役員をおく。
- | | | | | | |
|------|-----|-------|-----|-----|-----|
| 会 長 | 1 名 | 副会長 | 若干名 | 理事長 | 1 名 |
| 副理事長 | 若干名 | 監 事 | 若干名 | 理 事 | 若干名 |
| 事務局長 | 1 名 | 副事務局長 | 若干名 | | |
- (1) 事務局には、次の六部を設け、各部とも、部長 1 名 副部長 1 名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部・会計部・研究部・会報部・研修部・調査部
 - (2) 本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
 - (3) 役員を選出と任期は、下記のように定める。
 - (i) 役員は理事会において選出する。
 - (ii) 役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第 7 条 (理事会) 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する
- (i) 理事会は、必要に応じて、会長が召集する。
 - (ii) 理事会は、第 6 条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第 8 条 (会 計) 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第 9 条 (会計年度) 本会の会計年度は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
- 第 10 条 (監 査) 本会の会計は、監事によって監査をうける。
- [附 則]
- 第 11 条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8 月 29 日 制定
平成 2 年 5 月 18 日 一部改正

MEMO

中国品 〓 古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品 〓 画仙紙・色紙・各種額縁・水墨画用品

文房四宝

文真堂

金沢市尾張町二丁目一一二八
電話(〇七六)二六四一八三六

平成九年度 光村図書版

小学校書写児童用教材

書き方の練習

一・二年各上下 三～六年各一 三三〇円

B5拡大判 二四～三二頁 四色刷り

毛筆書き方の練習

三～六年各一 四二〇円

B4四判 各三二枚

小学校書写教授資料

毛筆書き方ビデオ

VHS各約三〇分 各九二二三円

初・中・上級編

改訂版 字形と筆順 氷田光風編著

四六判 二八〇頁 一五〇〇円

中学校書写生徒用教材

中学・硬筆練習帳

B5判 四八頁 三三〇円

光村教育図書出版株式会社

東京都品川区西五反田二・二七・四

TEL 03-3779-0581

東京書籍

北陸出張所：金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
〒920 ☎076-222-7581 FAX076-232-2719

書の心と智慧を凝縮した、
珠玉の名言を集大成！
初めての書の名言辞典！

書道

名言辞典

A5判・上製本・カバー付・ケース入り・本文七八八頁・カラー口絵四頁 定価七八〇〇円(税込)

宇野雪村
西林昭一 [編著]
福本雅一



中国三千年の書作品や古今東西の芸術理論を縦横に取り上げながら、
書の理論と美学の原理を分析・解明する。

書の美学

陳廷祐 著・成家徹郎 訳

四六判二八〇頁 定価二五〇〇円(税込)

飯島春敬編・A4判三九六頁 定価二〇九四円(税込)

実技書の古典

日本・中国を代表する漢字・かなの名書150余種を技法中心に鋭く解
説する。臨書・做書作品を多数収録した書法百科事典

墨

墨液

玄宗

◎ぼくえき本格派

固形墨の書き味を再現した本格的油煙墨液

(練習用)
墨液
濃墨液



(作品用)
普通
中濃
濃墨
超濃



桐華
(中濃墨)



無上純墨
(濃墨)



天爵
(中濃墨)



靈華
(濃墨)



神遊

株式会社 墨運堂

〒630 奈良市杉ヶ町39-1 TEL(0742)26-5611

伝統的工芸品指定 熊野筆 高級書道用筆墨硯

株式
会社

久保田 魏

本社 広島県安芸郡熊野町7505-3 TEL 082 (854) 0009 (代)
東京 東京都台東区台東3-42-4 書道殿堂東京久保号ビル

伝統と技術をほこる銘墨

呉竹墨

そのまま書ける書道用液

ぼくえき

個性ある色調

油煙・青墨・茶墨・濃墨・各種

油煙磨墨液
天衣無縫



純松煙磨墨液
松潤



書芸吳竹

紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨



森輝万象

展覧会作品用
【純黒】



株式会社 呉竹精昇堂 〒630-8670 奈良市南京終町7丁目576
TEL 0742(50)2050 東京・札幌・仙台・福岡

サン美フレームは

作品の女房です。

作品をしっかりと守り、その魅力を十分に引き立てるフレーム。
作品の心を大切に思う気持ちが
ひとつひとつのサン美フレームにこめられています。

額縁の総合専門メーカー



株式会社 サン美術工芸

本社・工場/富山県高岡市内免4-6-33 (〒933)
Phone 0766(21)611240 ファックス 0766(25)3851

額

株式会社

折鶴マークは高級額のシンボルマークです。

大 島



◆事業内容 書道額・和額・日本画額・洋額・別寸額・特注品・屏風・衝立・軸装の製造販売

●本社/広島県甲斐郡上下町上下1513-1

☎084762-3517 (代) FAX084762-4528

●東京営業所/東京都三鷹市下連雀1-16-5

☎0422-42-3085 FAX0422-42-3251

●福山営業所/福山市春日町6-14-24

☎0849-41-8161 FAX0849-41-8048

ホームページアドレス <http://www.daisho.co.jp>

- 因州産紙
- 書道用紙
- 洋紙板紙
- 包装資材



株式
会社

因州屋

〒680 鳥取市商栄町155番地
TEL (0857) 24-6611(代) FAX (0857) 27-1811

筆

入木筆

株式
会社

博文堂本舗

〒639-11 大和郡山市柳1の1

TEL 大和郡山 07435-2-3251(代)

FAX 07435-2-3253

筆

伝統の工芸品 熊野筆製造
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター

株式
会社

一休園

本社 〒731-42 広島県安芸郡熊野町1897 TEL082(854)00190(代)

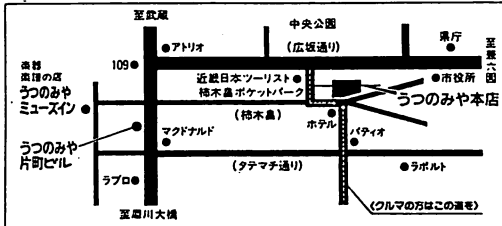
大阪営業所 〒580 松原市岡6丁目5-50 TEL0723(35)0605

東京営業所 〒225 横浜市都筑区荏田東3-1-15-201 TEL045(942)4119

"アンテナショップ"
熊野筆センター広島店 〒730 広島市中区八丁堀5-29 TEL082(222)1919

"せせらぎの街 柿木島"

本 **うつのみや** (雑貨) **Oops!**
ウツスマ



〒920 金沢市広坂1丁目1番30号 TEL.076(234)8111(代)

良書を普及し続けて34年

株式会社 ほるぷ 金沢支店

〒920 金沢市北安江37の2 (信開北安江ビル2階)

☎ 076(263)5271

公的資格を取ろう!!

文部省
認定

硬筆書写・毛筆書写検定

●後援—全国都道府県教育委員会

●試験の種類と程度

4級…基礎的な技術及び知識

3級…一般の技術及び知識

2級…専門的な技術及び知識

1級…高度な専門技術及び知識

●試験日（同日実施）

◎平成9年第3回…10年1月31日(土)

◎平成10年第1回…10年6月21日(日)

◎平成10年第2回…10年11月22日(日)

(毎年6月、11月、翌年1月の3回実施)

●試験地

全国主要都市、20名で試験会場設置可

●受験者携参考書刊行（申し込みは協会へ）

硬筆：手びきと問題集（定価900円〒310円）

毛筆：手びきと問題集（定価1,000円〒310円）

●受験料

	1級	2級	3級	4級
硬筆	4,120円	2,060円	1,550円	1,030円
毛筆	4,640円	2,680円	1,850円	1,030円

●特典

書写・書道教育に最適。文部大臣より優秀者の表彰。公的資格が得られ、進学、就職に有利。

■願書請求方法—宛名明記の返信用封筒（80円切手貼付）と切手200円を同封し、協会にご請求ください。

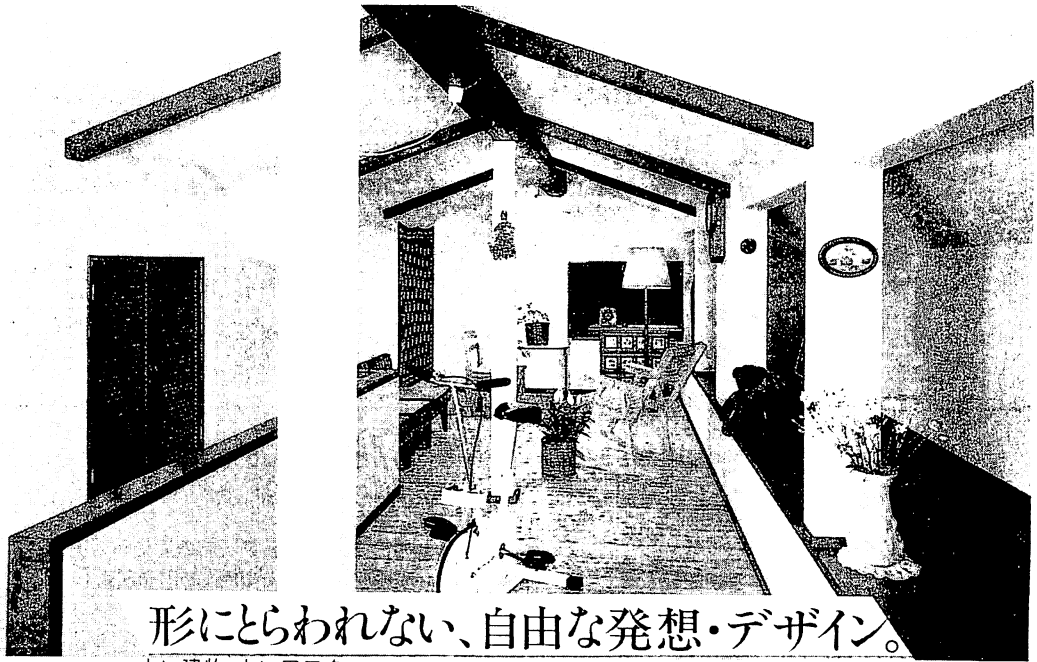
〒170 東京都豊島区南大塚3-41-3 TEL03-(3988) 3581(代)

財団法人 日本書写技能検定協会

書道・水墨画用品専門店

文房四宝 絃 貴 堂

〒920 金沢市千木1丁目33-1 TEL・FAX(076)253-0618



形にとらわれない、自由な発想・デザイン。

よい建物、よいアフター



新協 新協建設工業
株式会社

許可番号 建設大臣許可(特02)第6027

石川支店 076(257)2535

FAX. 076(257)2570

〒920-01 石川県金沢市法光寺町207-4



第8回

石川県書写書道教育研究大会

NSC 中村産業株式会社

中 村 栄 一

金沢市涌波3丁目6-13 〒920

TEL(076)261-8569

FAX(076)224-8287

書画芸術の明日を創る

筆・紙・墨・硯

もろろん
さん

筆 文
こう

株式会社 贅交社

本社 京・山科区勸修寺東出町4-1 ☎075(572)8964
二条店 京・中京区河原町通二条西入 ☎075(222)0390

文部省認定・硬筆書写検定 平成9年度版

1.2級合格のポイント 1650円(税別)

3級合格のポイント 1070円(税別)

4級合格のポイント 880円(税別)

日本習字普及協会

113 東京都文京区本郷3-4-5 T 03-3813-6925

清水比庵・窓日彫拓本集

毎日佳境

濱崎道子編 A4判・横120頁 4500円(税別)

歌人で画家で書家であった比庵の多くの作品から会席膳、小卓などに彫られた作品の拓本集録

岩崎美術社

113 東京都文京区本郷3-4-5 電話03(3813)4221

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5

TEL 075 (812) 3318

書道出版 草 林 舎

中国法書大観
定本 良寛書蹟大系

株式会社 開明社

名古屋市西区名駅2-34-22

TEL (052) 582-5282

FAX (052) 582-5384

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書のエデュケーション・教材
- 毎日の学習教材「はつらつ」

北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4

☎(076) 232-2425(代)

日本画・洋画

壁襖
貼製
工作
事部

屏 額 掛
風 装 軸

美術
部

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎金沢 221-3658

Life and Technology

INAMI 教材

PHONE (076)222-0565 FAX (076)224-0581

カラープリント特急仕上げ！ 1時間仕上げ可能です。

カラープリント・証明写真

大切な写真だから……

写真の **ミヤノ**

河北郡津幡町津幡ハ96-1

・津幡本店 ☎289-4181 ・金沢新神田店 ☎291-8022
・ハロータウン
モリモト店 ☎257-3780 ・スカール店 ☎288-3187

特別仕様3階建て住宅「セレッソ」

重量鉄骨3階建てまたは、1階鉄骨、2・3階木造、準木造の構造で対応します

資金計画のお手伝いもいたしております。お気軽にご相談ください。

3階建住宅
[高断熱仕様]
木造住宅



Sakura

株式会社さくら

金沢市二口町二95-1 ☎076(223)0505

☎0120-71-0505

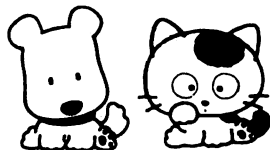
OA機器・事務器・文具・紙製品

百 々 商 会

〒920-02 金沢市木越1丁目69番地

TEL・FAX 257-2065

学校教材・文具・事務用品



奈良教材文具店

松任市新田町10-3
TEL 076-274-6370

文 溪 堂

新 学 社

光 文 書 院

教 育 同 人 社

日 本 標 準



代理店

教材・教具・文具

藤田商店

小松市新鍛冶町13の1
TEL0761-21-3278

学校教材特約店

島野教材社

代表者 島野和夫

石川県小松市矢田野町イの41
電話・FAX(0761)44-2622
郵便番号923-03

写真・ビデオ制作 光画社

〒920 金沢市尾張町1丁目7-8

☎金沢 076-264-3288(代) FAX 076-262-4537

第8回石川県書写書道教育研究大会

きものと洋品

たかもり

津幡中央銀座商店街

TEL 076-289-2355

広告看板一般

有限会社 **アサダ・デザイン看板**

代表取締役 浅田 徹

野々市町本町4丁目16-31 TEL 248-2367(代)



コンビニエンス・ストア
Rabbit Foot

津幡店 / 河北郡津幡町浅田丙48-1 TEL (076)289-4612

宇ノ気店 / 河北郡宇ノ気町内日角中12 TEL (076)283-5302

全国
菓子博

名誉大賞受賞

エム

遊仙亭

八っ房の梅

倶利伽羅山

不動も赤か

御進物に

お茶のひとつときに

御愛用下さい

小泉菓子舗

津幡町 TEL 289-2637

旅、こころ

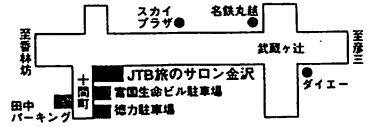
パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、旅のことならなんでもとっています。
 私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。
 旅する人の気持ちで……新しいJTB。



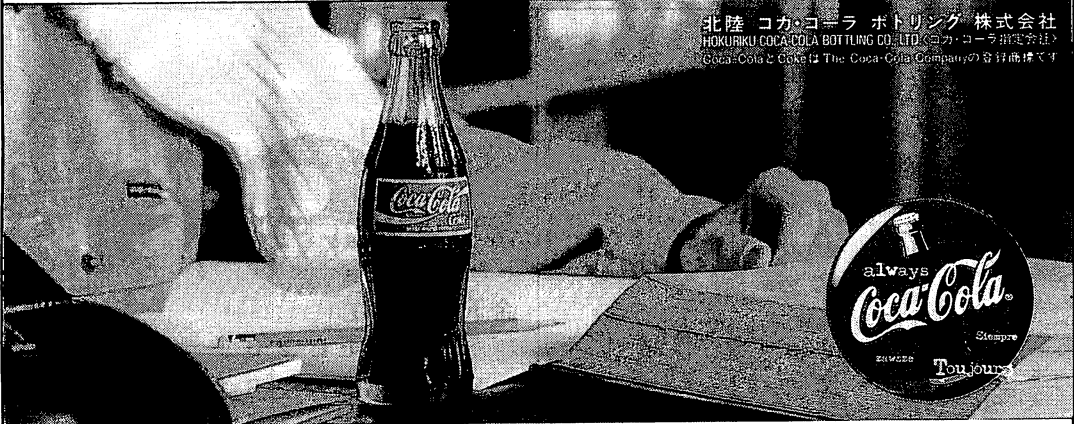
For Your Travelife

JTB旅のサロン金沢

〒920 金沢市下堤町30(スカイプラザ前)
 海外専用 ☎0120-64-7082 国内専用 ☎0120-64-7072



※お車でご来店のお客様は上記の駐車場をご利用下さい。
 1時間無料券を差し上げます。
 ●営業時間 平日・土曜日/9:30~17:30(日・祝日休業)



北陸 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
 HOKURIKU COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. (コカ・コーラ出資会社)
①Coca-ColaとCokeはThe Coca-Cola Companyの登録商標です

教材教具・視聴覚機器・OA機器・ワープロ・パソコン

株式会社 ダイシン

金沢市米泉8丁目105
 TEL 243-1555
 FAX 243-1783



株式会社 ハクシ印刷

〒925 羽咋市南中央町183-51(唐戸山相撲場前)
 TEL(0767)22-1243(代) FAX(0767)22-6161



アトラスコーポレーション
 〒920 金沢市広岡町1-2-14(コーワビル501)
 TEL(076)223-1248
 FAX(076)223-7988

あすを築く教育のいしずえ

 北陸青葉

学校教材販売

書道セット

かきかたノート

本田教材社

金沢市寺町1丁目3-26

☎ (076) 241-1339

参考書 心理検査 教材

株式
会社

布村教材社

金沢市小坂町中35-4

TEL (076) 251-1702



教材社

金沢・北安江

TEL 231-6773

FAX 231-6940

学校教材なんでも

河北郡宇ノ気町森(宇ノ気中学校前)

書籍
事務用品
たばこ

前田文具店

TEL 283-0066

FAX 283-0066

総合印刷・企画・編集

東井印刷所

金沢市糸田新町10-1

TEL (076) 280-1625

FAX (076) 280-1925

第八回

祝

石川県書写書道教育研究大会

(有)ヤマガミ共育社

〒921 金沢市高島3-154

TEL 076(291)1250 FAX 076(292)8008

<http://www.nsknet.or.jp/i-kazu/index.html>

教材・教具・OA機器・その他

(有)タカセ教材

〒923 小松市錦町28番地

TEL (0761)21-2186

FAX (0761)21-4868

本・文具・教育用品・事務用品・ヤマハ音楽教室

備まえやま

加賀市山代温泉北部3丁目39の1

TEL (07617) 6-0137・0138

FAX (07617) 7-1597

事務用品・スチール家具・紙製品・文具
トータルオフィス

織田

加賀市大聖寺本町65

TEL (07617) 2-0094

FAX (07617) 3-0094

sports shop

いい汗ながそう
MM スポーツしよう

野々市町高橋町19-18

スポーツ

TEL (076)246-2488

野球用品専門、スポーツ用品全般

辻野スポーツ

金沢・安江町アーケード街

TEL 263-7777(代)

TOYO PHOTO STUDIO

東洋写真館

スタジオ撮影 ビデオ撮影 出張撮影
スクールアルバム コマーシャルフォト

営業時間 AM9:00-PM7:00

金沢市彦三町二丁目五-五 ☎920

☎(076)231-6456

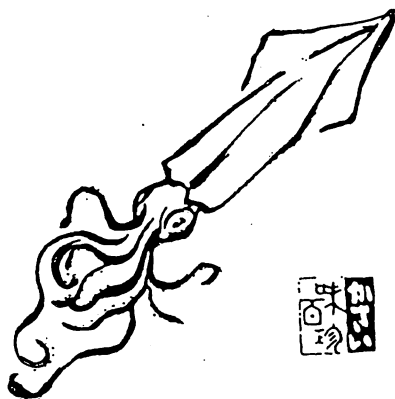
FAX(076)221-1097



デザイン・日本画・洋画材料・額縁

かわさき画材

金沢市寺町3丁目13の19 TEL (076)243-8244



珍味のかさい

本社/〒921 金沢市米泉町8丁目8番地

TEL (076) 247-2231

FAX (076) 247-3612

片町店/〒920 金沢市片町1丁目7番17号

TEL (076) 262-9333

FAX (076) 262-9333



あなたの家の通しるべ



金沢支店

〒920 金沢市高岡町1-45 大同生命ビル1F
TEL 076(231)0196(代)
FAX 076(231)2595
http://www.tobu.co.jp/travel

野田 誠光霊園 分譲中



星山石材株式会社

〒921 金沢市長坂3丁目12番22号
TEL (076) 242-1644(代)
FAX (076) 242-9493
菊川ショールーム 61-0333



宝石・時計・メガネ

金沢宝石鑑別センター

日本宝石コンサルタント協会会員
株式会社
伊田

〒920 金沢市彦三町2-3-11
TEL (076) 221-7162(代)
FAX (076) 221-3409



金沢市片町2-21-6 シンニチビル2F
Phone 076-262-1919 〒920

教育シューズ振興会
北信越学術普及本部

有限会社 小間井宏尚商店

〒920 金沢市鶯町10番3号
TEL (076) 252-5878(代表)
FAX (076) 252-2884

㈱ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
http://www.nsknet.or.jp/hellobc/index.htm
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920 石川県金沢市諸江町中丁179-3
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
営業時間 AM 9:00~PM 11:00



天徳院前 ・尼寺で食べる
・庵そば 庵うどん

しょう りゅう あん
小立庵

金沢市小立野四丁目二番三号
TEL (076) 261-4321

開明・古梅園製品
奈良博文堂筆 販売代理店



株式会社 中野

代表取締役 中野 博
金沢市千木町へ15-1
TEL (076) 258-1466(代)
FAX (076) 258-1520

新しい時代へ
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

熊登印刷株式会社

本社 ● 〒920 石川県金沢市武蔵町7番10号
 TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559
 工場 ● 〒924 石川県松任市番匠町293番地
 TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016
 グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社

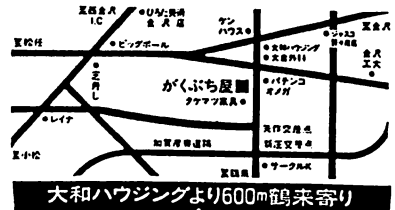
額縁が安い。画材が安い!!

書道額

県下一の品揃

野々市のつるぎ街道

がくぶち屋
HIROTA



大和ハウジングより600m鶴来寄り

100坪の売場にぎっしりと2500点

野々市町白山町104

TEL 076-294-0203

FAX 076-294-7050

日本の旅

日本の旅

世界の旅

VIFA



豊かな感動のステージへ

東急観光

金沢支店

TEL076 (222) 0109